

ひろしまの遺跡

第118号

破城の痕跡を確認！

— 亀居城跡妙見丸 第2次調査 (大竹市小方一丁目) —



石垣の裏込めと前面の砂礫 (破城行為によって石が転落している)



調査区遠景 (矢印部は石垣のみつかった地点)

大竹市にある亀居城跡妙見丸の調査を行いました。妙見丸は厳神社などが立地する尾根上にある郭で、亀居城本丸跡の東側にあります。調査区は妙見丸の北東隅の東側斜面の平坦面にあたります。

見つかった石垣は、廃城に伴う破城行為によって壊されていますが、後世の改変を伴わない、築城時に近い形の石垣が確認できました。

発掘調査速報

① 亀居城跡（妙見丸）第2次調査

調査期間 平成29年5月22日～7月20日

亀居城跡は慶長8（1603）年から5年をかけて築城されましたが、築城から3年後の慶長16（1611）年には破棄されています。

調査区は亀居城本丸跡の東にある郭（妙見丸）の北東端に位置しています。調査で見つかった石垣は、郭（妙見丸）の北東隅（標高28m）から3mほど下方の斜面に存在する小平坦面に築かれ、北辺石垣・西辺石垣と西辺石垣の南西端から北西方向に短く伸びる南西石垣の3面が残っていました。石垣の規模は、現状で北辺石垣が長さ6.68m、高さ1.7m、石積3段、西辺石垣が長さ5.02m、高さ2.38m、石積5～6段、南西石垣が長さ2.14m、高さ1.08m、石積2段ほど残っていました。

北辺石垣の目地が横方向に綺麗に通っているのに対して、西辺石垣（とくに南西側）・南西石垣は目地の乱れが大きく、石材の積み方も雑でしたが、長さ70～185cm、幅21～85cm、高さ28～69cmの長方体の石材を主として小口積みをしています。また、北辺石垣と西辺石垣の北隅部は最大規模の石材を整美な算木積みに積み上げていました。

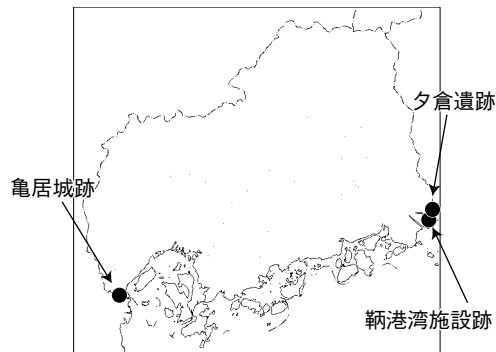
石材の背後は10～50cm大の小角礫を大量に詰めて裏込めとし、上下の石材間には高さの調節や石材を固定するための厚さ2～3cm、10～20cm大の板状の石片を多く詰めていました。石材間の詰めは小礫や石片と砂を主体にし、石垣壁面の石材間には間石として10～20cm大の小礫を多く詰めているのも、本石垣の特徴といえます。

石垣前面には多くの石材が、裏込めに用いられた多量の小角礫とともに転落した状態で見つかりました。これらは人為的なもので、廃城時の破城行為に伴うものと考えられます。

遺物は北辺石垣の前面平坦面から小柄が1点出土しています。



小柄の出土状況



3面の石垣



北辺石垣



南西石垣



北東隅部の石積み



② 鞆港湾施設跡（福山市鞆町鞆）

調査期間 平成29年5月15日
～平成30年3月下旬（予定）

瀬戸内海の中央に位置する港町・鞆には江戸時代以降整備された「波止（はと）」や「雁木（がんぎ）」、「常夜灯（じょうやとう）」「焚場（たでば）」などの港の施設がよく残されています。このうち雁木は、江戸後期の文化8（1811）年に整備されたといわれる大雁木のほか、北雁木・東雁木などに分かれ、港町鞆の風情をよく伝えています。

調査は、鞆地区の高潮対策として実施される防潮堤の設置に係る北・東雁木の修復工事に伴うものです。

9月までの北雁木の調査で、雁木は4段ほどの石垣の上に構築されていることや石垣の下には胴木と呼ばれる沈下防止の丸太が敷き並べられていることなどが明らかになりました。雁木の基盤土は角礫層で、この上に石灰と思われるものを加えた砂+粘土+円礫を練り混ぜた土で雁木の土台を造り、雁木を固定していたようです。雁木の最上部には円柱や角柱の繫船柱（けいせんちゅう）が設置されています。角柱に「明治五年」（1872年）の年号と人名が彫り込まれていました。長さが2.1mほどあり、その3分の2は地下に埋設されていました。内容や性格については、これからの調査となりますが、港湾整備の技術が少しずつ解明されつつあります。



鞆港全景（北西から）



調査区近景



雁木下部の石垣



繫船柱の調査



③ 夕倉遺跡 第2次調査（福山市津之郷町夕倉）

調査期間 平成29年11月6日
～12月下旬（予定）

遺跡は福山市街地から芦田川を隔てて西側に位置する津之郷町に位置し、丘陵斜面と水田地帯に立地する弥生・古墳時代から中・近世の集落遺跡です。

昨年度の調査では、水田部分から中世を中心とする段状遺構1基、井戸と思われる土坑3基、溝状遺構7条、ピットなどが発見され、調査地点が弥生時代から近世に及ぶ集落の縁辺部の一角だったことがわかりました。

今年度は、丘陵部分の発掘調査で、集落の広がりや新たな遺構の発見が期待されます。



夕倉遺跡全景（北西から）



只今、整理作業中 ですよ。



専門家に見てもらいました

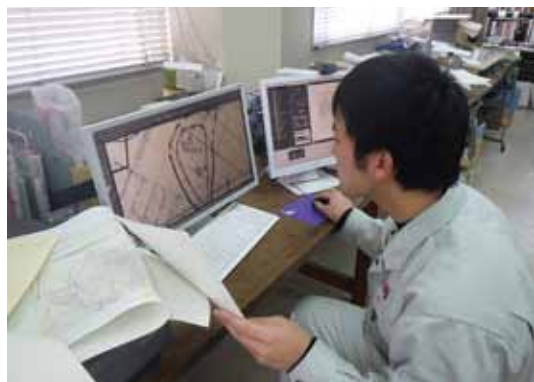
平成26・27年に調査した亀居城関連遺跡で出土した陶磁器を、専門家に見てもらいました。亀居城関連遺跡は近世の町屋跡で、当時の人々が使用していた陶磁器がたくさんみつかっています。

近世の頃には全国各地に焼物の産地があり、亀居城関連遺跡でも様々な種類の陶磁器があることから、陶磁器を専門としている研究者や、焼物の産地の研究者に遺物を見てもらいました。陶磁器の多くは肥前（佐賀県）で焼かれたものですが、備前焼も比較的多く出土しており、また丹波・信楽など関西で焼かれた陶器もあることがわかりました。備前焼の中には、岡山県以外ではあまり見られないものも出土しており、亀居城関連遺跡が交通・流通の拠点であったことが窺えます。

多くの成果を収めた亀居城関連遺跡の発掘調査報告書は、来年度に刊行予定です。



出土品を見てもらいました



取り込んだ図面を画面上でなぞります

デジタル化進む

発掘調査が終わっても、調査員は大忙し！調査が終わると、整理作業を行います。出土した遺物の実測やトレース、写真撮影など、やるべきことが多くあります。実測ではただ大きさや形を見るだけではなく、遺物の模様や残された痕跡などをしっかりと観察します。

トレースは、調査中に描いた遺構の図面や、実測した遺物の図面を浄書することです。昔からある作業ですが、使用する道具は大きく変わりました。以前は製図用のペンを使って手で描いていましたが、現在はパソコン上で専用のソフトを使用したデジタルトレースを行っています。

写真も、発掘現場では現在でもフィルムを使用していますが、遺物を撮影する際はデジタルカメラを用いることがほとんどです。フィルムは劣化するため、30年以上前に撮影した35mmフィルムから、順次デジタル画像に変えていく作業を数年前から行っています。

使う道具が変わっても、やらないといけないことは同じ。発掘を終えたら、報告書の原稿執筆を含め、調査員は多くの時間をパソコンとにらめっこして過ごします。



保管室には大量のフィルムがあります



年月がたち、フィルムが劣化して変色しています

デジタル化し、色調整を行ったあと



知られざるひろしまの遺跡探訪

広島発！ローカル(乗合)列車・バスで行く遺跡探訪ツアー

前編



三原城の石垣について解説中



鞆の海浜にて



磨崖和霊石地蔵



大可島城跡

第1回 (平成29年5月20日)

第1回は三原市佐木島にある、磨崖和霊石地蔵を見学に行きました。磨崖和霊石地蔵は約700年前に、石に彫られたお地蔵さまで、干潮時にだけ全身を拝むことができます。

佐木島に渡るフェリーは三原港からでているため、まずは皆で築城450年の三原城の石垣を見学しました。三原城は小早川隆景が築城し、当時は海に面した海城でした。満潮時には海に浮かんでいるように見えたことから、「浮城」と呼ばれました。

石垣見学後、干潮時を狙っていざ佐木島へ！晴れ渡る青空の中、お地蔵さまがきれいに顔をだしてくれていました。磨崖和霊石地蔵は長い間波に洗われているため、かなり摩滅しており、保存が急務です。この美しい風景の中にあるお地蔵さまがいつまでも見られるように願います。お地蔵さまを見たあとは島を散策し、安楽寺で三原城から移築された門を見学して帰途につきました。

第2回 (平成29年6月17日)

第2回は福山市鞆町へ。鞆といえば潮待ちの港として有名ですが、今回は鞆城と大可島城という、かつて鞆にあった2つの海城を見学に行きました。大可島城跡のある小山はかつては島でした。戦国期に因島村上家一族が大可島城を築き、鞆の浦一帯の海上権を握っていました。

鞆城は、備後の戦国武将渡辺氏が尼子氏に対抗するために築いた要害を、関が原の戦いのあと安芸・備後に入った福島正則が近世城郭に再築したものです。その頃、大可島も埋め立てられて陸続きとなりました。

大可島城跡は現在は寺となっており、遺構は残っていませんが、そこから見える景色は、ここに村上水軍の城があったことを彷彿とさせます。鞆城跡は一部石垣が残っており、また町中にある石垣は鞆城のものを転用したものも多く、参加者は石垣の刻印を探しながら伝統的な町並みを散策しました。

南観音考古学教室V

見る・聞く・やってみるの考古学

7月22日（第1回）・8月4日（第2回）・8月24日（第3回）・9月30日（第4回）の4回に渡って、南観音公民館と共催で考古学教室を開催しました。大人から子供まで、たくさんの方が参加してくださいましたが、特に第1～3回は夏休み期間ということもあって、地域の小学生の姿が多くみられました。いずれの回もみなさんとともに熱心に取り組んでくださり、楽しい教室となりました。

第1回 きらきら教室



勾玉をつくりました



ネックレス完成！

第2回 うまうま教室



土器でご飯を炊いたよ！



お味はいかに？

第3回 古代の鑄造体験とマル秘お仕事拝見・体験



職場見学のあとは鑄造



ぴかぴかのお金が完成

第4回 てくてく教室



坂の多い三滝地区



三滝寺周辺をてくてく歩く

● インターンシップ研修 ●

8月21日～25日の5日間、大学生4名が参加して、インターンシップ研修を実施しました。

研修では基本的な遺物の整理作業やカメラ撮影・測量などの実習、遺物の梱包作業のほか、南観音考古学教室（第3回）の運営補助を行いました。

慣れない作業に苦戦していましたが、熱心に取り組んでいました。

「自分の学んでいる学問に対して、より興味を持った。」「イベントを運営するというのは、とても手間と時間がかかることだと思った。」「発掘調査が終わったあとに、こんなにたくさんの仕事があるとは全く知らなかった。」という感想があり、研修は貴重な体験となったようです。



土器のネーミング作業



遺物の梱包作業

考古学 アラカルト 48

あの世に行くにもお金が必要!?

日本の怪談に「子育て幽霊」という話があります。死んだあとに出産した女性が、幽霊となって赤ちゃんのために毎晩飴を買いに行くお話です。幽霊はなぜお金を持っていたのでしょうか。中世のお墓を発掘すると、お金が出土することがあります。死者に供えられたお金を「六道銭」と言います。人間が死後に「地獄」「餓鬼」「畜生」「修羅」「人間」「天上」の六道を輪廻転生するという思想があり、六道それぞれの地蔵菩薩にお金を渡すと成仏できると考えられていました。そのために死者に6枚の銭を持たせたのです。また、六道銭は三途の川の渡し賃とも言われています。

中世には物々交換ではなく商品をお金で買ったり、税をお金で払うなどといった貨幣経済が浸透したことも、信仰に影響を与えていったのでしょうか。物語ではお母さんは六道銭がなくなると、自分の着物と引換えに飴を買っています。赤ちゃんを守るため、自分の死後の旅に必要なお金で飴を買っていたのです。子供を思う親心は、今も昔も、そして死んでからも同じだったのですね。（順田千織）



鷲田遺跡(東広島市)の中世の墓



6枚重なって出土



出土したお金

行事のお知らせ

平成29年度ひろしま考古学講座VI 邪馬台国時代の考古学

会場 広島県立総合体育館 地下1階 中・大会議室

(広島市中区基町4番1号 電話：082-228-1111)

聴講無料！！

回	期 日	演 題	講 師
1	12月3日(日)	邪馬台国時代の鉄 －小丸遺跡(三原市)の発掘調査から－	松井 和幸 (北九州市立いのちのたび博物館)
2	12月17日(日)	邪馬台国時代の土器 －元岡遺跡群(福岡市)の発掘調査から－	常松 幹雄 (福岡市経済観光文化局埋蔵文化財課)
3	平成30年 1月13日(土)	邪馬台国時代の墳墓 －佐田峠墳墓群(庄原市)の発掘調査から－	今西 隆行 (庄原市教育委員会生涯学習課)
4	2月12日(月・休)	邪馬台国時代の青銅器 －荒神谷・加茂岩倉遺跡(島根県出雲市・雲南市)の発掘調査から－	松尾 充晶 (島根県古代文化センター)
5	2月24日(土)	邪馬台国時代の食糧事情 －旧練兵場遺跡(香川県善通寺市)の発掘調査から－	石丸 恵利子 (広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門)
6	3月17日(土)	邪馬台国時代の集落 －浄福寺遺跡(東広島市)の発掘調査から－	山田 繁樹 (当事業団埋蔵文化財調査室)

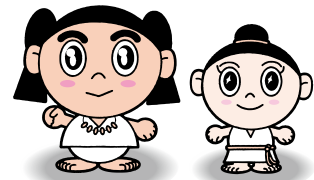
時 間 13時30分～15時30分 (開場は13時～16時)

定 員 100名

受講料 無 料

受講案内 受講申込：全6回受講希望の方は、事前にお申込みください。
各回単独の受講は申込不要です。

申込方法：当室まで電話・ファックス・Eメール等でお申込みください。(申込先は下記参照)



ひろちゃん

やよいちゃん

あ と が き

秋がやってきたと思ったら、朝がとても冷えます。
あっという間に冬になってしまいそうです。

開催した行事に参加していただき、ありがとうございました。
これから、上記の考古学講座のほか、1月には「広島
の遺跡を語る」の開催を予定しています。
詳細は決まり次第ホームページ等でお知らせします。
歴史や文化に興味がある方は、ぜひご参加ください。

(T・J)

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第118号

発行日 平成29年11月30日
編 集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <http://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発 行 (公財)広島県教育事業団
印 刷 株式会社ニシキプリント